

高校生からの提言と同採決

次に、住みよく魅力ある奈良県づくりについての提言を行います。

智辯学園奈良カレッジ高等部、2番川畑陽太議員から、提言第1号、店舗誘致で実現する奈良県の経済活性化について提言決議方の動議が提出されましたので、川畑陽太議員に趣旨弁明を求めます。

提言第1号

店舗誘致で実現する奈良県の経済活性化

○川畑議員

智辯学園奈良カレッジ高等部を代表して、提言第1号、店舗誘致で実現する奈良県の経済活性化につきましても、提言文の朗読をもって提案に代えさせていただきます。



(智辯学園奈良カレッジ高等部 川畑 陽太 議員)

現在、奈良県では、空き家や商店街の空き店舗が増えているところがあります。空き家や空き店舗が増えると地域の活気がなくなり、さらなる人口減少につながります。空き家や空き店舗の増加を防ぐための対策について調べたところ、宮崎県美郷町で空き家や空き店舗をなくして地域を活性化する取組が行われたことを知りました。美郷町は、人口4,500人の町で、過疎化に伴い、生活に必要な飲食店やガソリンスタンドが地域から次々と姿を消していました。美郷町は、令和3年度に美郷町在住世帯の家計の消費動向を調査し、美郷町全体の年間食費消費額のうち美郷町外で購

入された割合が全体の70.3%であり、およそ10億円のお金が食費として町外に流出していることが分かりました。そこで、「美郷町には10億円分の企業チャンスがある」として様々な店舗や施設を誘致し、その結果、地域内でお金が循環するしくみが生まれ、地域の活性化につながったとのこと。

さて、奈良県では平成23年に消費実態調査が実施され、県外流出額の試算は23.5%、約4,000億円と報告されています。県民が奈良県内で買物する割合が増えれば、地域の中でお金が循環し、地域経済を活性化させることができると考えます。改めて消費実態調査を行い、奈良県民の消費傾向を把握して、必要となる店舗や企業を誘致することによって、奈良県内で消費する割合が高くなり、奈良県の経済を活性化できると考え、以上を、店舗誘致で実現する奈良県の経済活性化の取組として提言します。

令和5年8月18日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしくお願ひします。

○蔵野議員

ただいま川畑陽太議員から提案されました提言第1号、店舗誘致で実施する奈良県の経済活性化について賛成します。

○海岡議員

ただいま川畑陽太議員から提案されました提言第1号、店舗誘致で実現する奈良県の経済活性化について賛成します。

○李高校生議長

ただいまの動議は、成規の賛成があつて成立しました。

次に、育英西高等学校、9番高乗美空議員から、提言第2号、子どもたちが安全に暮らせる地域づくりについて提言決議方の動議が提出されたので、高乗美空議員に趣旨弁明を求めます。

提言第2号

子どもたちが安全に暮らせる地域づくり

○高乗議員

育英西高等学校を代表して、提言第2号、子どもたちが安全に暮らせる地域づくりにつきまして、提言文の朗読をもって提案に代えさせていただきます。



(育英西高等学校 高乗 美空 議員)

私は、将来子育てをするにあたって、奈良県は子育てしたいと思える環境にあるかを考えました。そこで、育英西高校に通う生徒の保護者にアンケートをしました。「奈良県は子育てしやすい環境にあると思いますか」という質問で「いいえ」と答えた人は全体の47%であり、その理由として、「地域との交流が少ない」、「防犯カメラが少ない」などの回答が多くありました。このことから、子育て世代は働いている方が多く、子どもたちの登下校の時間に送り迎えなどできない方もおり、その上、地域との交流が少なく子どもの見守りを近所の人に頼みにくく、子どもの防犯面に不安を感じている人が多いことが考えられます。一方、私の住む地域では、小学生の下校時に通学路で見守るボランティアがいますが、その方々も高齢のために数が減っていると聞きました。子どもたちが安全に暮らせる地域をつくるのが子育てしやすい環境につながると思いますが、それを達成するにはさまざまな課題もあると感じます。

私は、子どもたちが安全に暮らすためには、子どもの保護者だけでなく地域の大人で協力して子

どもを見守ることが必要だと思います。また、子どもにとっても、地域に保護者以外にも知っている大人がたくさんいると安心すると思います。そこで、私は、子どもたちと、地域に住む大人、とりわけ高齢者を含め登下校時に自宅にいる人と顔見知りになるために、地域の多くの人が交流できる場が必要だと考えます。例えば、東京都では、民間主催ではありますが、学校に行けない子どもたちと高齢者が互いに交流できる場所を作る取組をされています。このような幅広い世代の人が集まる取組は新たな交流を生み、その交流が何かあったときお互いを助け合うことにつながると考えます。奈良県として、幅広い世代の人が集まる活動、例えば、「奈良ゴミ0ウィーク」として地域の人と子どもが協力するボランティア活動など、地域住民を巻き込むようなイベントを行うと、それぞれの地域で人々が交流できる機会が生まれると考えます。それぞれの地域ネットワークを強くすることで子どもたちが安全に暮らせる地域となり、そのことが保護者にとっても子育てのしやすい地域になると考え、このような取組を子どもたちが安全に暮らせる地域づくりの取組として提言します。

令和5年8月18日 奈良県高校生議会
ぜひともご賛成いただきますよう、よろしく願います。

○川畑議員

ただいま高乗美空議員から提案されました提言第2号、子どもたちが安全に暮らせる地域づくりについて賛成します。

○大平議員

ただいま高乗美空議員から提案されました提言第2号、子どもたちが安全に暮らせる地域づくりについて賛成します。

○李高校生議長

ただいまの動議は、成規の賛成があつて成立しました。

次に、大和高田市立高田商業高等学校、14番硯菜々香議員から、提言第3号、小・中・高校生による魅力ある地域づくりについて提言決議方の動議が提出されましたので、14番硯菜々香議員に趣旨弁明を求めます。

提言第3号

小・中・高校生による魅力ある地域づくり

○硯議員

大和高田市立高田商業高等学校を代表して、提言第3号、小・中・高校生による魅力ある地域づくりにつきましては、提言文の朗読をもって提案に代えさせていただきます。



(大和高田市立高田商業高等学校 硯 菜々香 議員)

現在、奈良県内の公立幼稚園、認定こども園、小・中学校では、保護者や地域住民が学校の教育活動に参画し、学校と協働して地域ぐるみで子どもたちを育む活動として「地域と共にある学校づくり」を行っています。その一例として、「地域未来塾」を実施し、放課後や長期休業中等にボランティアで子どもたちに学習支援を行う活動や登下校の見守り活動などを行っています。

私は、地域で子どもを育てる取組は、子どもが安心して過ごせるとともに、さまざまな経験ができる機会になると思います。学校紹介で少し話しましたが、本校では学校のある大和高田市を盛り上げるため、地域のみなさんと一緒にさまざまな活動を行っています。学校だけでは経験できないことができ、地域の方に喜んでもらえて、とても充実感や達成感を得ることができます。

このことから、私は、同じ地域にある学校同士と一緒に活動する機会をもっと増やせばよいのではないかと考えます。例えば、部活動で中学生と高校生と一緒に練習したり、高校で小・中学生を招いてスポーツ教室や文化教室を開催したりしてもよいと思います。地域未来塾で勉強を教える活動に加えて、放課後や長期休業中に小学生・中学生・高校生が交流できる活動ができれば、小・中学生にとって少し上の年齢である高校生と交流することで自分の未来像を描きやすく、その思いが勉強を頑張りたいという意欲にもつながるのではないかと思います。また、地域の小・中・高校生、さらに地域の大人のみなさんも一緒になって、地域の地域を盛り上げる活動ができれば、もっと魅力のある地域をつくることができると思います。このような活動は、小・中・高校生にとっても良い経験となり、また地域を活性化することもできると考え、以上のことを、小・中・高校生による魅力ある地域づくりとして提言します。

令和5年8月18日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしくお願ひします。

○阪口議員

ただいま硯菜々香議員から提案されました提言第3号、小・中・高校生による魅力ある地域づくりについて賛成します。

○隅田議員

ただいま硯菜々香議員から提案されました提言第3号、小・中・高校生による魅力ある地域づくりについて賛成します。

○李高校生議長

ただいまの動議は、成規の賛成があつて成立しました。

次に、県立香芝高等学校、18番小笠原優伽議員から、提言第4号、奈良県南部・東部における廃校をリノベーションした地域活性化について提

言決議方の動議が提出されましたので、小笠原優伽議員に趣旨弁明を求めます。

提言第4号

奈良県南部・東部における 廃校をリノベーションした地域活性化

○小笠原議員

県立香芝高等学校を代表して、提言第4号、奈良県南部・東部における廃校をリノベーションした地域活性化につきましては、提言文の朗読をもって提案に代えさせていただきます。



(県立香芝高等学校 小笠原 優伽 議員)

私は学校での学習を通して、過疎化によって奈良県内の小学校がたくさん廃校になっていることを知りました。特に奈良県南部東部では過疎化が進んでおり、児童・生徒の数がとても少ない学校が増えていることも新聞から学びました。そんな奈良県の過疎化について危機感を持った私は、過疎化が進んだ地域への移住者を増やして地域を活性化するにはどうすればよいかと、その手段を探しました。そして、過疎化した地域に新たな産業を生み出すことが必要ではないかと考えました。

そこで、私が提案するのは「廃校をリノベーションした地域活性化」です。

以前、私はテレビ番組で、廃校になった千葉県鋸南町立保田小学校が2015年12月11日に道の駅として生まれ変わったことを知りました。広々とした施設には、旧体育館を使った直売所「里山市場 きよなん楽市」や旧校舎棟のベランダを使った交流所「まちの縁側」、旧校舎棟2階

の教室を利用した宿泊施設「学びの宿」などがオープンしています。他府県だけでなく、奈良県においても天川村の旧天之川小学校で「トラフグ学級」というトラフグの陸上養殖が行われています。陸上養殖は、海洋資源や環境への負荷が少なく持続可能な漁業として注目を集めています。

このように、今ある廃校を再活用しその地域ならではの産業を生み出すことによって、新たな移住者の増加につなげることができ、過疎化が進む地域の活性化ができると思います。以上のことから、廃校をリノベーションした地域活性化を提言します。

令和5年8月18日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、お願いいたします。

○硯議員

ただいま小笠原優伽議員から提案されました提言第4号、奈良県南部・東部における廃校をリノベーションした地域活性化について賛成します。

○大内田議員

ただいま小笠原優伽議員から提案されました提言第4号、奈良県南部・東部における廃校をリノベーションした地域活性化について賛成します。

○李高校生議長

ただいまの動議は、成規の賛成があって成立しました。

次に、県立郡山高等学校、24番野原優華議員から、提言第5号、子どもに光が当たる奈良県について提言決議方の動議が提出されましたので、野原優華議員に趣旨弁明を求めます。

提言第5号

子どもに光が当たる奈良県

○野原議員 県立郡山高等学校を代表して、提言第5号、子どもに光が当たる奈良県につきましては、提言文の朗読をもって提案に代えさせていた

できます。

現在、奈良県では、県外へ転出する人が増加しています。奈良県公式ホームページによると、奈良県の人口は、1991年の約145万人をピークに、2021年は約131.5万人と、22年で13万人ほど減少しています。



(県立郡山高等学校 野原 優華 議員)

県内の市町村ごとに見ても、転出に伴う人口減少が課題となっている市町村は多く、全国的にも多くの市町村が同様の課題を抱えています。しかし、その一方で、人口が増え活性化している市町村もあります。その一つに明石市があります。明石市長を12年務めた泉房穂氏は、「一人ひとりに光を当てた政策をすれば、『ここに住みたい』と思うのは当然」と話し、「5つの無料化」として、18歳までの医療費の無料化、第2子以降の保育料の無料化、0歳児へのおむつなどの子育て用品の無料配布、中学校の給食費の無料化、18歳まで市内公共施設の入場料無料化を行いました。その結果、明石市の人口は増加し、「住みたい街ランキング」で第3位に躍進しました。

私は、これからの自分の未来を想像したとき、明石市のように手厚い子育て支援があれば、仕事や子育てといった自分たちのやりたいことが実現でき、安心して暮らすことができると感じました。もし、このような政策が奈良県でも行われたら、私はずっと奈良県に住みたいと思います。奈良県として、手厚い子育て支援や子育てしやすい環境を整備し、「奈良県は安心して子育てができる環境だ」と多くの人にPRすれば、今、奈良県

に住む若者は「このまま奈良県に住み続けたい」と思い、また、他府県の若者も「これから奈良県に住みたい」と思うようになり、その結果、多くの若者が奈良県に集まると思います。これからの奈良県を担う人が増えることが奈良県の活性化につながると考え、このような政策を「子どもに光が当たる政策」として提言します。

令和5年8月18日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしくお願ひします。

○橋渡議員

ただいま野原優華議員から提案されました提言第5号、子どもに光が当たる奈良県について賛成します。

○瀬尾議員

ただいま野原優華議員から提案されました提言第5号、子どもに光が当たる奈良県について賛成します。

○李高校生議長

ただいまの動議は、成規の賛成があつて成立しました。

次に、帝塚山高等学校、29番片木輝議員から、提言第6号、奈良県観光大使による観光客数増加政策について提言決議方の動議が提出されましたので、片木輝議員に趣旨弁明を求めます。

提言第6号

奈良県観光大使による観光客数増加政策

○片木議員 帝塚山高等学校を代表して、提言第6号、奈良県観光大使による観光客数増加政策につきましては、提言文の朗読をもって提案に代えさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の扱いが5類相当に移行し、多くの観光客が日本国内の様々な場所を訪れています。奈良県も例外ではなく観光客が多く訪れています。奈良県には、北部から南東部ま

で数多くの観光名所があります。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響が広まる前の令和元年度の観光客数のデータを調べたところ歴史的建造物が多い奈良県北部を訪れた観光客の数は1,614万人なのに対し、自然を利用した様々な体験ができる奈良県南東部を訪れた観光客の数は373万人と約4倍の差があり、南東部への観光客が少ないことがわかります。



(帝塚山高等学校 片木 輝 議員)

そこで奈良県南東部の観光客数を増やすために県独自の観光大使の制度を作ることを提言します。観光大使の方に奈良県南東部を観光していただく動画などを制作することで、観光客数を増加させることができると考えます。この時、動画配信サービスを使用する中心層である10代20代から人気のある方を観光大使に任命することで奈良県に興味を持っていただく機会が増えると思います。また、長い動画は時間があるときにしか見られませんが、5分ほどの短い動画ならいつでもどこでも気軽に見ることができるのではないのでしょうか。

このように、観光大使制度を導入し、観光大使の方に実際に体験していただきそれを発信することは奈良県の観光客数増加にもつながると考えますので、「奈良県観光大使による観光客数増加政策」として提言します。

令和5年8月18日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしくお願ひします。

○熊野議員

ただいま片木輝議員から提案されました提言第6号、奈良県観光大使による観光客数増加政策について賛成します。

○今西議員

ただいま片木輝議員から提案されました提言第6号、奈良県観光大使による観光客数増加政策について賛成します。

○李高校生議長

ただいまの動議は、成規の賛成があつて成立しました。

次に、奈良文化高等学校、33番谷口莉悠議員から、提言第7号、奈良県で子育てをしたいと思える政策について提言決議方の動議が提出されましたので、谷口莉悠議員に趣旨弁明を求めます。

提言第7号

奈良県で子育てをしたいと思える政策

○谷口議員

奈良文化高等学校を代表して、提言第7号、奈良県で子育てをしたいと思える政策につきましては、提言文の朗読をもって提案に代えさせていただきます。

先ほど質問させていただいた、医療体制を支える看護師の確保につきまして、長期的にみると、税金を納める若い人たちを増やす必要があると思います。そのためには、奈良県で子育てをしたいと思えるような政策が必要だと考えます。

数十年前の父母や祖父母の世代では、子育てはお金や時間を心配せずに、ただ授かりたいと願ひ、出産した後は子供の成長を喜び合う、子育てでしか味わえないような楽しさがあったと聞きました。

子育てには、子供の成長から喜びを感じるなど、楽しい一面があるということを知っている人は、若い世代の人たちにどれくらいいるのでしょうか。今、子育てに対するマイナスイメージが多いように感じます。そのような漠然としたイメージから、

子供を望まない人も少なくないと感じます。



(奈良文化高等学校 谷口 莉悠 議員)

子育てに関する情報は奈良県でも発信されており、子育てネットならではの、子育てに関する情報を載せている様々なサイトにつながるようになっていきます。しかし、そのほとんどは出産・育児にお金がかかることに対する支援や、妊娠中・子育て中の人に役立つ情報が多数であり、出産や子育てに消極的な人に対する、子育ての良さが分かる情報があまり掲載されていないように感じました。

そこで私たちは、未来に向けてのイメージ戦略として、若い世代に向け、子育ての良いところや楽しいところを知ってもらえるような情報発信について提案します。具体例として、現役のお母さんから子育ての良いところ、楽しいところをお聞きし、広報や公共の場所に設置されている県の掲示板、県のホームページなどにそれをまとめて掲載すると、多くの人に知ってもらいやすいのではないかと考えました。また、奈良県広報誌に掲載することにより、県民の皆様にご子育ての良いところ、楽しいところを知ってもらえれば、子育てに興味を持ち、子育てへの意欲がわく若者が増えるきっかけとなると思います。以上を、子育てをしたいと思える政策として提言します。

令和5年8月18日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしくお願ひします。

○片木議員

ただいま谷口莉悠議員から提案されました提言

第7号、奈良県で子育てをしたいと思える政策について賛成します。

○安井議員

ただいま谷口莉悠議員から提案されました提言第7号、奈良県で子育てをしたいと思える政策について賛成します。

○李高校生議長

ただいまの動議は、成規の賛成があつて成立しました。

次に、奈良女子大学附属中等教育学校、34番上田眞衣議員から、提言第8号、奈良県コンベンションセンターの利用促進の取り組みについて提言決議方の動議が提出されましたので、上田眞衣議員に趣旨弁明を求めます。

提言第8号

奈良県コンベンションセンターの 利用促進の取り組みについて

○上田議員

奈良女子大学附属中等教育学校を代表して、提言第8号、奈良県コンベンションセンターの利用促進の取り組みにつきましては、提言文の朗読をもって提案に代えさせていただきます。

私たちは、奈良県コンベンションセンターをより活用する取り組みについて提案したいと思います。

奈良県コンベンションセンターの2023年5月の稼働率は約38.7%、6月の稼働率は約54.3%であり、知事は、2023年5月20日のコンベンションセンター視察後に、稼働率の低さを指摘された上で、多方面に営業活動を展開することを県担当者等に指示されたと伺いました。

そこで、コンベンションセンターの稼働率を向上させる活用法として、以下の2つを提案します。

第1に、中高生向けの国際交流イベントの開催です。中高生が国際交流に関わることのできるイ

ベントは少なく、また、参加するにはハードルが高いと感じます。そこで、姉妹都市や友好都市の中高生が関わることでできるイベントを開催することで、中高生が積極的に国際交流を行うきっかけづくりになると考えます。



(奈良女子大学附属中等教育学校 上田 眞衣 議員)

第2に、奈良の歴史や文化の魅力を発信するイベントの開催です。奈良県には多くの世界遺産、文化遺産があります。そこで、奈良にしかない特徴を生かした世界遺産の講義を聞き、その後フィールドワークを行うというイベントや、伝統工芸や郷土料理を体験できるイベントを開催し、参加した方に改めて奈良県の魅力に触れてもらうことで、より奈良県を好きになってもらいたいと考えます。その際、そのイベントで中高生がボランティアガイドを務めると、中高生自身も奈良の魅力を再認識するきっかけになると思います。

奈良県には、国内だけでなく海外からたくさんの観光客が訪れます。こうしたイベントに国内・海外の観光客の方々に参加してもらうことで、奈良県の魅力の発信や国際交流の促進につながるのではないかと考え、奈良県コンベンションセンターの利用促進の取り組みとして提言します。

令和5年8月18日 奈良県高校生議会

ぜひともご賛成いただきますよう、よろしくお願ひします。

○藤木議員

ただいま上田眞衣議員から提案されました提言第8号、奈良県コンベンションセンターの利用促

進の取り組みについて賛成します。

○谷口議員

ただいま上田眞衣議員から提案されました提言第8号、奈良県コンベンションセンターの利用促進の取り組みについて賛成します。

○李高校生議長

ただいまの動議は、成規の賛成があつて成立しました。

提言第1号から提言第8号を一括議題とします。お諮りします。

提言第1号から提言第8号については、動議のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。



(賛成者起立)

ご着席願ひします。

起立多数であります。

よつて、提言第1号から提言第8号については、採択することに決しました。

これをもつて、住みよく魅力ある奈良県づくりについての提言を終わります。

以上をもちまして奈良県高校生議会議を閉会します。